

# 市立病院における CAPD 外来の取り組み ～出口部ケアを中心に～

鎌田香織、石川千夏、五十嵐紅子、今野恵子、松尾重樹\*  
市立秋田総合病院 3階北病棟、泌尿器科\*

## Management of CAPD outpatients care in the Akita city hospital

Kaori Kamada, Chika Ishikawa, Akane Igarashi, Keiko Konno, Shigeki Matsuo \*

Department of Urology, Akita city hospital

### <はじめに>

当院では、外来と病棟看護師のプール制に伴い、平成14年10月から CAPD 外来を開設し2年が経過した。今後の CAPD 外来の充実を図るためアンケート調査を行い、出口部ケアに対する患者の意識の向上と指導が最も大切であることが再認識された。CAPD 外来開設までの経緯と現在の活動も交えながら、出口部ケアを中心に報告する。

### <研究方法>

対象：当院 CAPD 外来通院患者16名

方法：アンケートを作成し、CAPD 外来開設前後の意識調査を実施

### <結果>

#### 1. CAPD 外来開設以前の問題点と目的

問題点として、看護師の CAPD に関する知識や技術の均質化が不十分であり、看護の継続性がなく、患者把握や出口部管理が不十分であることがあげられた (図1)。そこで、看護のケアの均質化を図るために、一定の看護師が入り、患者の問題を個々に把握し、適切な指導や処置を行うと共に、患者自身が指導の必要性を理解し、トラブルのない出口部管理を目指していけるように支援していくこと、また患者間で情報交換ができる場を提供することを目的に開設された (図2)。

#### CAPD外来開設以前の問題点

- ・ 看護師のCAPDに関する知識・技術の均質性が不十分
- ・ 看護の継続性が不十分
- ・ 患者把握が不十分
- ・ 出口部管理が不十分

図1

#### CAPD外来開設の目的

- 一定の看護師がCAPD外来に入り、ケアを均質化する
- 患者個々の問題を把握し、適切な指導や処置が行えるようにする
- トラブルのない出口部を維持する
- 異常の早期発見や自己管理に必要な援助をする
- 患者間のコミュニケーションの場をもてるようにする

図2

## 2. 現在の活動

看護の継続性を図るために、記録用紙を作成（図3）。特に出口部の観察については、詳細な観察項目を設けた。また、出口部ケアを見直しマニュアルを作成した。実際には、患者が外来診察にきた時、出口部の観察と個人指導を行い、さらに検査データの配布とそれに見合った生活指導を行っている（図4）。

症例1：出口部周囲の広範囲にイソジン消毒を行い、皮膚のかぶれと汚れが顕著であったが、マスク消毒とシャワーによる出口部洗浄を実施。毎回の個人指導によりイソジンに対する認識の変化をもたらし現在は良好である。

症例2：出口部発赤があり、感染兆候を示していた。イソジン消毒とゲンタシン軟膏を塗布し、出口部の経過をみながらマスク消毒へ変更し、シャワー指導を行ったが、トンネル感染や腹膜炎を起こすことなく現在に至っている（図5）。

図3

図4

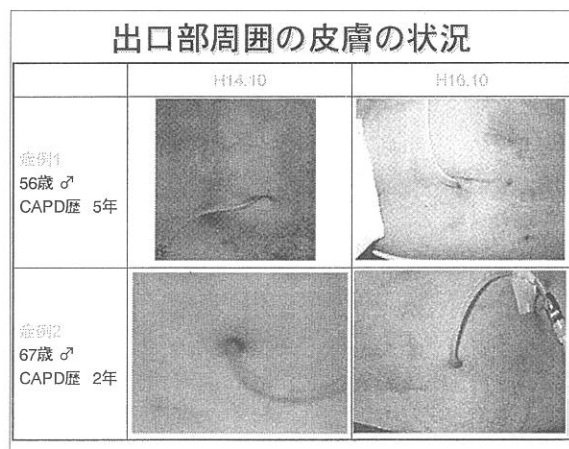


図5

### <アンケート結果と考察>

「出口部に対して」全員が関心を持つようになり、日々の出口部ケアを忘れがちな患者が多かったことを考えると格段の進歩といえる（図6）。「看護師が診ること」「洗浄について」「検査データについて」「栄養面について」「自分の身体に関心を持つようになったか」「看護師に相談できるようになったか」は半数以上が肯定的であった（図7、8）。以前は看護師が出口部を診るこ

とに対して抵抗を感じていた患者も多かったが、いまでは進んで見せてくれるようになり、意識の変化が感じられる。患者個々に検査データを配布後、食事指導を行ない、日常生活で困っている事や体調の変化など、個々の患者が抱えている問題を一緒に考え、具体的に支援できた結果と考える。以上のことから、CAPD 外来では患者の個々の問題点を把握することができるようになった。患者の意識の変化をもたらし、目に見えて出口部がきれいになったことは評価できると考え、CAPD 外来の開設は効果的であったと考える。

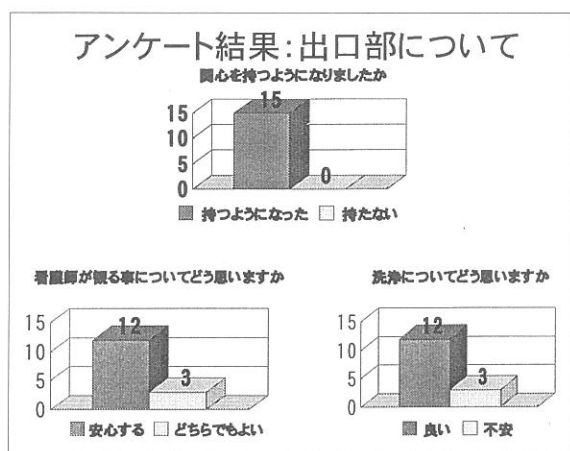


図 6

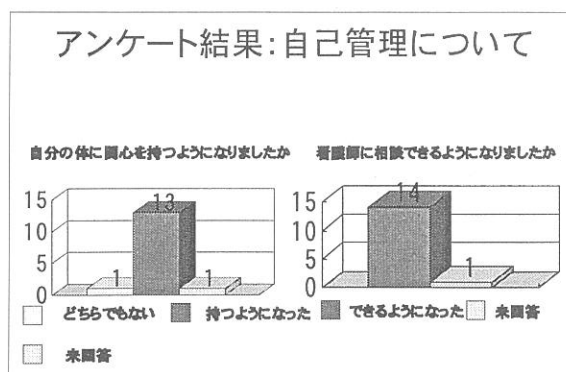


図 7

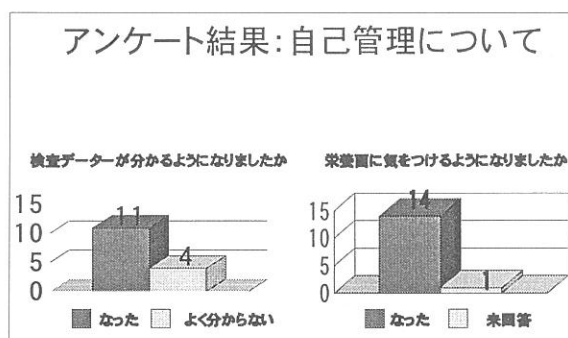


図 8

#### <おわりに>

今後は継続看護を充実させるための記録用紙の見直しを図り、患者の CAPD に対する意識をより向上させるために定期的な学習会の開催と、ケアの均質化を図るためにスタッフ教育のシステム化を図っていきたい (図 9)。

### 今後の展望

継続看護の充実化を図るための記録用紙の見直し

CAPDに対する意識を向上させる為の定期的な患者学習会の開催

ケアの均質化を図るためのスタッフ教育システム化の検討

図9

### 参 考 文 献

- 1) 高岩正至：よくわかる図解 カテーテル皮膚出口部のケア、酸漿出版、2003.
- 2) 増井則昭、池田和彦、石田裕則、石田真理、八竹攝子、小林 武：写真撮影による出口部の管理、腹膜透析：235-238、2003.
- 3) 佐藤明美、寺田章子、古谷隆一：腹膜透析導入時の患者教育－スキンケアに基づいたカテーテル出口部ケア－、看護技術50(13)：42-44、2004
- 4) 大滝容子、榎木由美、片倉純子：病棟・外来間のPD指導の統一と連携に向けて－SMAP法の症例を通して－、腹膜透析：158-160、2004.